



上の湯

先代の祖父母から孫夫婦が継承 家族で行ける「ちよいとレトロ」な老舗銭湯

往年のロータリーの名残をとどめる錦町十字路の程近く、路地裏に隠れ家のような佇まいを見せる「上の湯」。織都に根付く昭和初期創業の銭湯は今、平成生まれの津久井篤さん、美紅さん夫妻が5代目として切り盛りし、伝統の湯屋を守り続けている。

上の湯は美紅さんの母親の実家で、祖父母で4代目の笹倉幸一さん、文子さん夫妻が経営していたが、釜場を担当する幸一さんが令和3年2月に体を崩し休業。愛着ある上の湯を廃業危機から救うべく、美紅さんと当時交際中であつた篤さんが承継を申し出た。2人は間もなく結婚し営業準備に動く矢先、技を知る幸一さんが急逝。手探りの困難を乗り越え、同年7月に再始動を果たした。

浴槽は関東では珍しい、段差から温度差を生む「流れ風呂」式。今も稼働する昔ながらのマッサージ機やおかまドライヤー、冷蔵庫や看板類など、昭和30年代築の建物とともに温かみのある「ちよいとレトロ」な風情を大切に維持しつつ、銭湯経営



【上の湯】

- 住所/桐生市錦町1-8-11
- 電話/0277-43-8656
- 営業時間/15:15~22:30
(最終入店22:00)
- 定休日/月曜日・火曜日
- 📷 @uenoyu_kiryunoofuro
- ✂ @uenoyu_kiryu

者としては稀な若手世代ならではの着想を随所に反映。建物入口から男女に分かれる従来の様式を見直し、番台の位置を移して入口と脱衣所の間を男女共用のロビーとし、屋内で湯上りの団らんや待ち合わせを可能にした。親子連れでも利用しやすい環境整備や積極的な情報発信も実り、若い世代の利用も大幅に増加。老若男女問わず親しみやすい新たな銭湯のスタイルを提案し、早くも各方面から脚光を浴びる存在となっている。祖父母からバトンを受けた「孫夫婦」の二人三脚。祖母の文子さんは今も番台に入り、その奮闘を支える。「おひとりでも家族でも楽しめる銭湯」を目指しつつ、先代から受け継いだ想いと温もりを永遠に伝える。